「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「あなたが先生なら、どの生徒に「A」をつけますか？～

リコーダーのテストです。あなたが先生なら、どの生徒に「A」をつけますか？

①　１つも間違えずに吹けたものの、つまらなさそうに吹いていた生徒
②　間違えだらけでしたが、すごく楽しそうに吹いていた生徒
③　多少の間違いがあったものの、なめらかな指の動きで美しく吹いていた生徒

この問題に正解はありません。ただ一度考えてみてください。周りの友だちにも聞いてみてください。
人によって価値観が違うことを知ることができて楽しいですよ。
今回も・・・ひすい　こたろう　さんの本『世界一楽しくてためになる「幸せ」の授業』からです。

息子が小学生の時の授業参観。音楽の授業でした。
息子は一番後ろの席だったこともあり、じっくりと観察できたわけですが・・・
みんなと指の動きと違うんですね。**微妙ではない･･･あきらかに違うのです。**
･･･おかしい･･･
帰宅後、僕は息子に聞きました。「リコーダー・・まったく吹けてなかったよね？」
息子は・・・・



「うん！とうちゃん、俺ね、『シー』しか吹けないから。」
「えっ！『シー』しか吹けないだと!?　じゃあ、先生に見つかるだろ？」
「大丈夫だよ、とうちゃん。適当に指を動かして
後は気持ちよさそうな顔して吹いていると案外バレないんだよ。」

息子よ。『ドー』しか吹けないのならまだ分かるが、何で『シー』なんだ？・・・と疑問は尽きないのですが・・・よく考えてみたら・・・
「音楽」って「音を楽しむ」って書くんですよね。
息子はリコーダーを正確に吹けてないけど、楽しんで吹いているなら、それは音楽の本質ですよね。
リコーダーは、音を楽しむという**目的**のための１つの**手段**で、上手吹くのは目的を果たす一つの**目標**に過ぎないからです。
子どもが公園で遊んでいたとします。親は子どもに対して、「何をして遊んで欲しい」とかってないんです。縄跳びでも・・・鬼ごっこでも・・サッカーでも・・・砂遊びでも・・・何をしてもいい。
ただ親が子に望むのは**「楽しかった？」**と聞いて・・・**「楽しかった！」**と答えて欲しいだけなんです。
人生は満点を目指すのもありだけど、今 60 点なら「60 点でいかに楽しむか」っていうのだってありです。
大切なのは・・・１つの価値観に固執し、縛られるのではなく、状況に応じて柔軟にその時に最適な価値観を選択できることだと思います。

この話には続きがあります。その数日後・・・リコーダーのテストの日がやってきたのです。
『シー』しか吹けない息子は、どうリコーダーのテストを乗り越えたのか・・・
息子は颯爽と帰宅してきました。「リコーダーどうだった？」
「パーフェクトだったよ！とうちゃん♪」　「何！?パーフェクト！？　いつも間に練習を！？」
「とうちゃん。・・・・・パーフェクトに吹けなかった♪」
この発言に、家族は大爆笑したそうです。**パーフェクトってできないときにも使っていいんだ（笑）**
リコーダーをパーフェクトに吹けるようになって喜ぶのは先生。パーフェクトに吹けないことで爆笑したのは家族。
この世界に笑顔を増やしたことに、とうちゃんからは 100 点あげたいとのことでした。
このお話から・・・**「目的」**と**「目標」**と**「手段」の違いと設定**について・・・参考にしてくださいね。